

展覧会

古代 の くらし

- 旧石器時代から古墳時代 -

特別講演会

京都 J A ビル
13:30-16:30

11.23 日 祝

講演

「稲作のはじまり

— 弥生・古墳時代の米づくりの技術 —

京都大学名誉教授
京都府埋蔵文化財調査研究センター理事長

上原 真人

報告

「木製品からみた古代のくらし」

京都府埋蔵文化財調査研究センター調査員

新美 祥人 夢

展覧会「古代のくらし」

特別講演会

日 程

13時30分 開会あいさつ

(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

常務理事・事務局長 村山和久

日程説明

(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

調査課参事企画調整係長事務取扱 筒井崇史

13時40分 講師紹介

(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

調査課長 高野陽子

13時45分 特別講演

「稲作のはじまり

ー弥生・古墳時代の米づくりの技術ー」

(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

理事長 上原真人

15時15分 休 憩

15時30分 報 告

「木製品からみた古代のくらし

ー製作・マツリ・交流ー」

(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

調査課 新美祥人夢

16時30分 閉 会

主 催 京都府教育委員会

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

特別講演

「稲作のはじまり－弥生・古墳時代の米づくりの技術－」

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
理事長 上原真人

はじめに

- I 人が耕す
- II 家畜で耕す
- III 収穫する
- IV 脱穀する

本資料は、別冊として綴じています。

2

メモ

木製品から見た古代のくらし

－ 製作・マツリ・交流 －

（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 新美祥人夢

はじめに

向日市文化資料館で開催中の展覧会「古代のくらし－旧石器時代から古墳時代－」は古代のくらしにスポットライトを当てるもので、「住む」「食べる」「狩る」「栽培」「つくる」「道具」「運ぶ」「装う」「音楽」「祈る」の10のテーマごとにその変化を紹介しています。

この報告では、木製品を中心として、「つくる」・「祈る（マツリ）」・「道具」・「運ぶ（交流）」の観点から京都府内の木製品を他地域と比較しながら歴史的位置付けを行いたいと思います。取り扱う時代は、古墳時代がメインになります。古墳時代中期は、武器・武具が盛んに作られる時代であり、全国各地の集落遺跡から刀や剣を模して製作されたと思われる木製祭祀具^{さいし}などが多く見つかっています。それらの遺物は水辺の祭祀が行われていたと考えられる祭祀遺構に伴って出土することが多いようです。

特に年間降水量の多い日本海側の地域は、地中に残された木製品が比較的遺存しやすいという特徴があります。また、京都府は、弥生時代から古墳時代にかけての水にかかわる祭祀遺構、槽^{そう}付き木樋^{もくひ}の出土例が国内で最多です。

今回の発表では、武器形の木製祭祀具と木を用いる祭祀遺構に焦点を当て、述べていくこととします。

1. 祭祀具の種類

この節では遺跡から出土する代表的な祭祀具について報告します。

まず、材質は大きく①石製、②土製、③木製に分けることができます。

石製品には武器・武具、農工具、服飾品、機織具^{はたおりぐ}などがあります。石材は碧玉^{へきぎよく}や緑色凝灰岩^{ぎょうかいがん}、滑石^{かつせき}など多岐にわたります。石製祭祀具は、祭祀遺跡では農工具^{ゆうこうえんばん}や有孔円板、剣形、勾玉^{まがたま}、白玉^{うすだま}が中心であり、集落遺跡では有孔円板、剣形、勾玉、白玉のみがみられ、遺跡の性格により出土する祭祀具の違いが認められます（飯田2012）。

土製の祭祀具は、アケビ形やサカナ形などの土製供物^{くもつ}とそれを入れる^{ざる}筥形や高杯などの容器があります。これらは古墳から出土することが多いです。なお、祭祀行為に伴う石製品や土製

品には、以下で説明する槽付き木樋を表現するものが存在します。

一方、木製の祭祀具は土製と石製に比べて、種類が豊富であり、また武器関連のものから蓋^{きぬがさ}や団扇^{うちわ}のように有力者が用いたと思われるものも含まれます。また、容器などの祭祀具もあり、その種類は多岐にわたります(図1・9)。これら木製祭祀具は、マツリの内容によっての使い分けがあることが指摘されています(穂積2009)。

重要なことは祭祀具の祖型は、ヤマト政権下で生み出されるものではなく、各地域で製作されたものが、さまざまな交流により他地域の祭祀に組み込まれていくということがこれまでの研究で明らかになりつつあることです。

次に、後に詳細に触れる武器関連の木製祭祀具について、その概要を記載します。

古墳時代の武器で圧倒的多数を占めるのは剣と刀で、時期によってやりや鉾^{ほこ}、鏃^{ぞく}といった武器も存在します。これらの武器の大多数は鉄製で、古墳からも出土しますが、木製品として製作されることがあります。このような武器を模して製作された木製品を武器形木製品と呼称します(図2)。基本的にこれら武器形木製品は把^{つか}から刃部にかけて一連で製作されるものですが、これらとは別に刃部の部分を別で製作し、組み合わせることによって、一つの武器となる木製

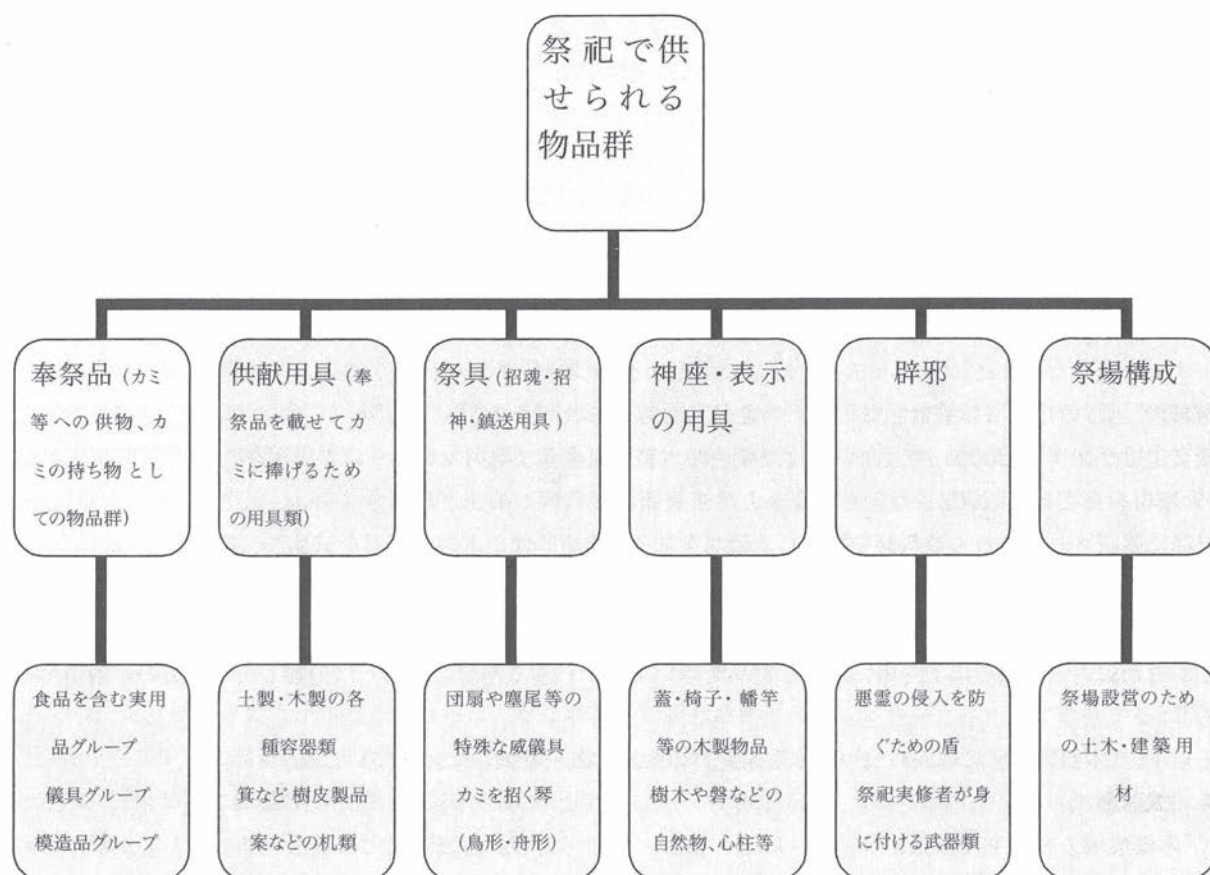


図1 祭祀で供される物品群構成(穂積2009)

刀剣把(図2-9~11)のみが出土することも古墳時代中期以降に一定数認められるようになります。また、武具では盾や甲などを木で作る場合も認められます。

2. 木製品の生産

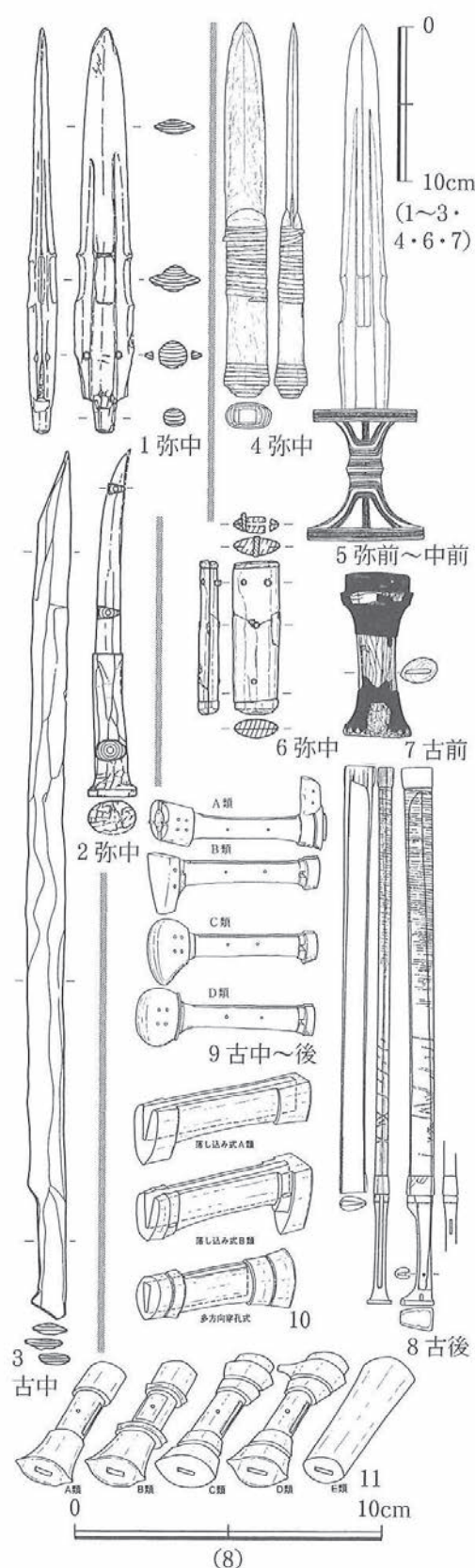
木製品は大きく「①加工する(生産段階)→②使用する(消費段階)→③廃棄を経て(廃棄段階)→④やがて土の中に埋まる→⑤現代に至って発掘、分析される(廃棄後段階)のプロセスを経て(村上2007)」、遺構から出土します。①加工する段階の木製品の生産工程には、伐採・加工と工具を必要とします。つまり、木製品の生産には原木と工具が必要で、集落遺跡で生産を行っている場合、副次的なものとして木を削った際に生じる木屑が出土することもあります。

(1) 木製品生産の工程と用いる道具

古くは石の道具を用いて作り出していたものが、時期が下るにつれ工具の主体が鉄製品に変化します。本発表では、冒頭でも述べましたように古墳時代中期を主に取り扱う時期としますので、工具は鉄製のものが主流です(図3)。手斧やノミ、ヤリガンナなどが古墳から出土する主な工具です。鉄製工具の中でも鋸はごくわずかししか出土しません。時期は異なりますが、京都府内では京丹後市の遠所遺跡で、6世紀後半に鉄製工具の原料になる鉄の生産を行っていた遺構が見つっています。

(2) 生産

生産場所 生産の際に木を削ると、削り屑が^{くず}出ます。この木屑が稀に遺跡に残されているこ



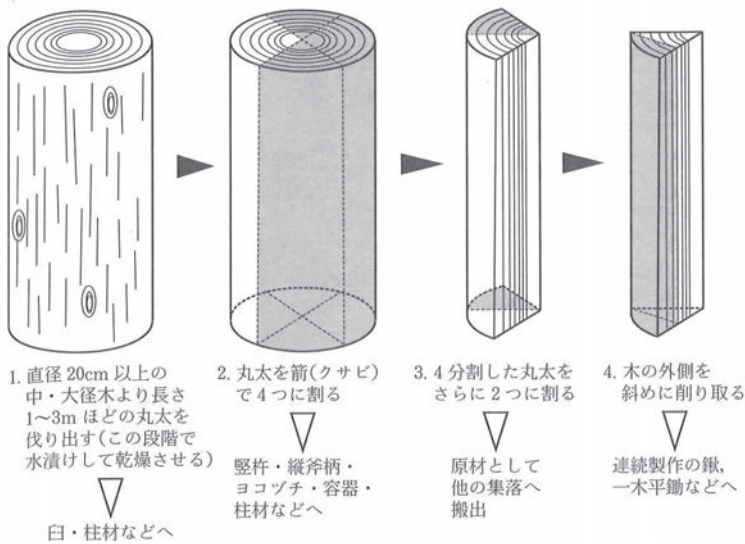
木製刀剣資料(武器形木製品へ1南方、2鬼虎川、3六大A、木製刀剣装具へ4八日市地方、5坪井・大福、川部二〇〇八、6宮ヶ久保、豊島二〇〇四a、7下田、8七廻り鏡塚、刀剣装具模式図へ9布留出土資料、10刀装具、豊島二〇〇七、11剣装具、豊島二〇〇八)

図2 木製刀剣資料(橋本2018)



図3 古墳時代の復元道具(竹中大工道具館2014)

桁目材の製材法(主に広葉樹材)



板目材の製材法(主に針葉樹材)

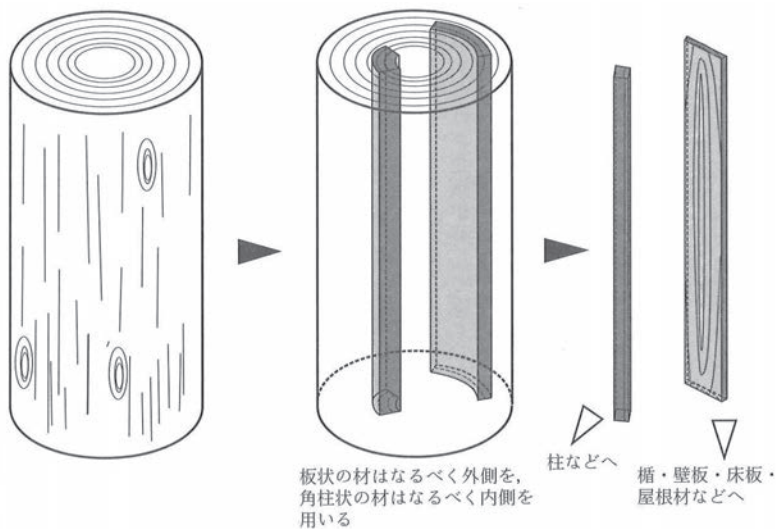


図4 木取りの方法

(山田2018 桁目材・板目材の製作工程を一部改変)

とがあり、木屑が出土するところ
の場で生産を行っていたという
ことがわかります。

樹種と木取り 道具に用いる
樹種についても特に強いこだわ
りがあったようで、弓に使う木
材はイヌガヤで、農具はカシ類
がよく用いられています。木の
特性を見極め、道具によって適
した方法と用材で、木を加工し
て製品を製作していきました。
また、用材の特性を生かして、
道具の持つ機能に適したものを
製作するために次の木取りがみ
られます(図4)。

①縦木取り(板目)…木製品の
上面に年輪の湾曲線が現れるも
の。

②横木取り(桁目)…木製品の
上面に平行した年輪のすじが現
れるもの。

3. 水辺のマツリ

木製品が多数出土する水辺で
行われたマツリの様子をみてみ
ましょう。地域、集落ごとにそ
の在り方はさまざまな様相があ
る水の祭祀ですが、大きく以下
の2つに分かれることが指摘さ
れています(穂積2012)。

①流水を利用し、施設などを
設け、祭祀行為を行うもの(流水

祭祀)

②湧水を利用し、その周辺で祭祀行為をおこなうもの(湧水点祭祀)

本発表では①に該当する水辺の祭祀に焦点を当て、京都府内の事例と他県の代表的な事例について概観します。

(1) 京都府内の事例

ふるどの古殿遺跡 京丹後市峰山町古殿に所在し、竹野川支流、小西川沿いの丘陵先端部の台地上に所在する集落遺跡です。弥生時代から古墳時代前期、中世の遺構が見つかりました(図5)。2次調査(昭和57年実施)で検出した古墳時代前期の溝(S D02)で、止水板を伴う構造物(堰か)が確認されています。続く3次調査(昭和61年実施)でも、S D02と存続時期が同じ溝(S D302)で堰板などの構造物が確認されました。座卓状の案や食事具、紡織具などの木製祭祀具も出土しています。また、S D02の南側で見つかった溝から古墳時代前期後半の木製刀剣把が出土したことは注目すべきポイントです。

あさごだに浅後谷南遺跡 京丹後市網野町に所在し、弥生時代後期から平安時代にかけて営まれた日本海に近い丘陵裾に位置する遺跡です。調査により、弥生時代後期から平安時代に至る遺構や遺物を検出しました(黒坪1998、石崎ほか2000)。注目されたのは、弥生時代後期から古墳時代前期と古墳時代後期に機能していた流路です(図6)。弥生時代後期から古墳時代前期の層からは、多量の土器と共に多数の木製品が出土しました。また、流路の中で確認された構造物は、古墳時代前期の槽付き木樋を伴う水利施設(図6 導水施設2)で、その木樋の出口からは桃の種がたくさん出土しました。古墳時代後期の層でも木製の刀剣の把(次頁写真)などが出土するとともに、堰などの水利施設(導水施設2)が見つかっており、古墳時代前期から中期にかけて水辺の

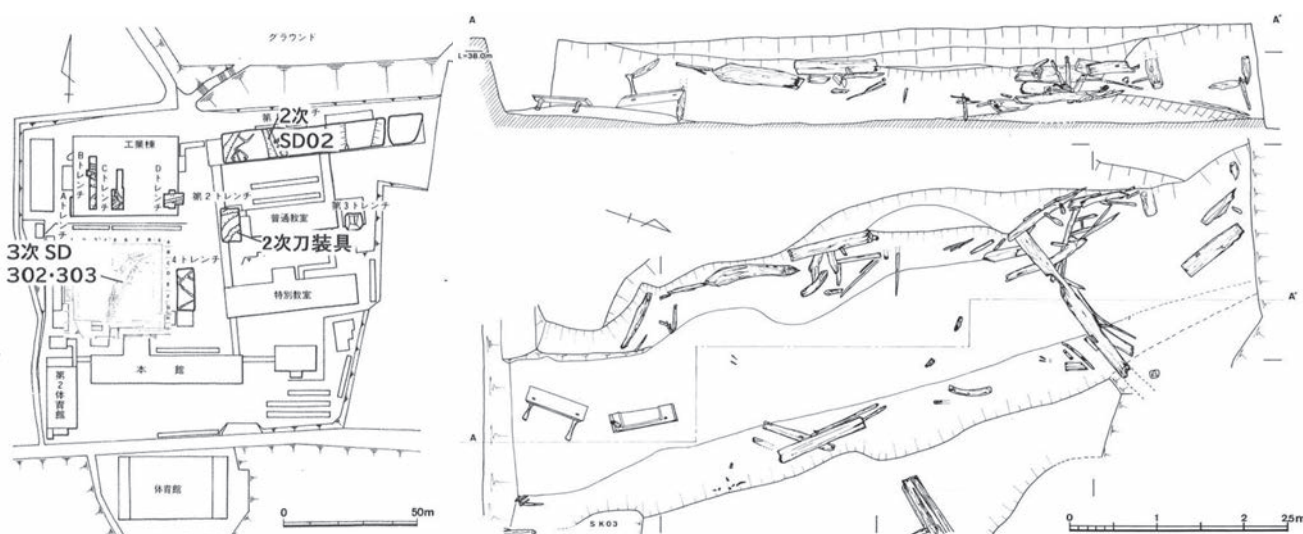


図5 古殿遺跡調査区配置図と2次調査S D02実測図(鍋田ほか1988)

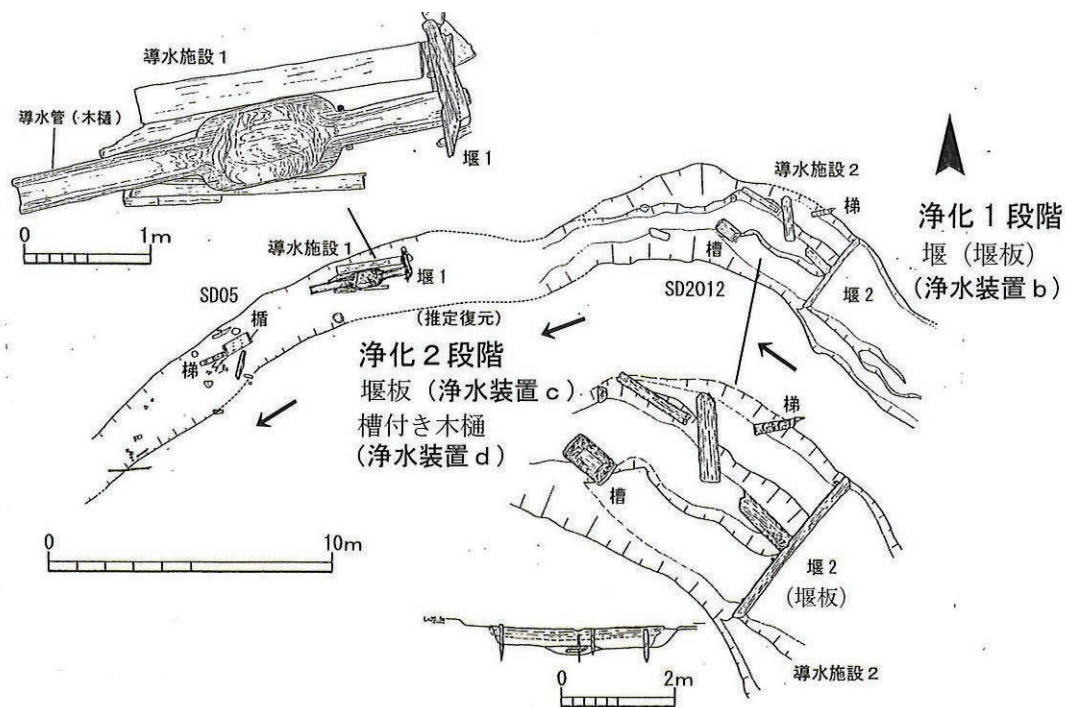


図6 浅後谷南遺跡流路内遺物出土状況(高野2022)

マツリを行った遺跡と考えられます。

^{かわらだに}
瓦谷遺跡 京都府と奈良県の境に位置する^{ならやま}平城山の丘陵部北側、木津川市市坂に所在した遺跡です。槽付き木樋が2点出土しています(伊賀1991)。これら2つの槽付き木樋は、原位置を保っておらず、上流からの流れ込みによって、集積したようです。一緒に堆積した層から古墳時代前期後半の土器が出土していることから、その時期に流されてきた(次頁写真上)ことがわかりますが、どのように組み立てていたかは不明です。槽付き木樋の樹種は2つともクリで、丸太を半裁し、中を刳り貫くことによって槽と樋の部分を作り出します。クリ材の木樋は出土例が少ないものの、クリは水に強い特徴があるため、選択されたのかもしれません。



浅後谷南遺跡出土の刀装具の把

^{ちよかわ}
千代川遺跡 ^{おおい}大堰川右岸の亀岡市千代川町に所在し、大堰川に注ぐ千代川によって形成された段丘化した扇状地と^{せんじょうち}開析谷底を中心に展開します。第37次調査においてA5区の谷部に流れる自然流路から木樋が出土しました(山本2025、辻2025・次頁写真下)。調査区内では時期が異なる2つの木樋が出土しました。1つ目の木樋は槽が失われており、樹皮付き



瓦谷遺跡の木樋出土状況



千代川遺跡第37次調査A5区木樋出土状況

の材でそれを支える土台などと合わせて出土しました。化学分析により古墳時代前期末から中期初頭の製品に比定できます。2つ目は槽付き木樋で、堰板や木樋に接して並べられた^{しん}芯持ち丸太などの部材から構成されていました。これらは、化学分析の結果、古墳時代中期の年代観が得られています。2つの遺構は、使用されている時期が異なっており、同じ箇所^{のふなが}で時間幅をもって祭祀が行われていたことを証明する貴重な資料です。また、周辺からは舟形や槽などの木製品がまとまって出土しています。この遺跡の槽付き木樋について極めて重要なことは、槽が2つあることです。後述する福岡県延永ヤヨミ遺跡に続き全国で2例目の発見になりました



小樋尻遺跡
出土琴

小樋尻遺跡 城陽市^{との}富野の木津川の右岸に所在します。古墳時代前期、古墳時代後期、奈良時代の建物跡が複数見つかっています。10・11次調査で自然流路N R02から大きく縄文時代後期～晩期と弥生時代中期～古墳時代前期にまたがる層を確認しました(福山2021、高野2022)。古墳時代前期の層で、堰板と合わせて水流に対して並行に設置された槽付き木樋が出土しました。この槽付き木樋を取り囲むように杭列を確認したのに加え、周辺からは漆塗りの盾や燃えさし、桃の種などが出土しました。流路内から出土した木製品は、鋤・鍬などの農工具や琴、盤、槽、案などがあります。また、槽付き木樋が出土した流路の周辺の土器集積遺構では、高杯、器台、小型丸底壺などを用いた土器祭祀を行っていた痕跡も見つかっています。

(2)他県の事例

石川県^{せんだい}千代・能美遺跡 小松市に所在する遺跡で、湧水点祭祀と流水祭祀の両方を行った跡が確認されました(図7)。北区画からは、大型掘立柱建物に隣接する地点で大型の桶を井戸枳材に転用した井戸が見つかります。大型

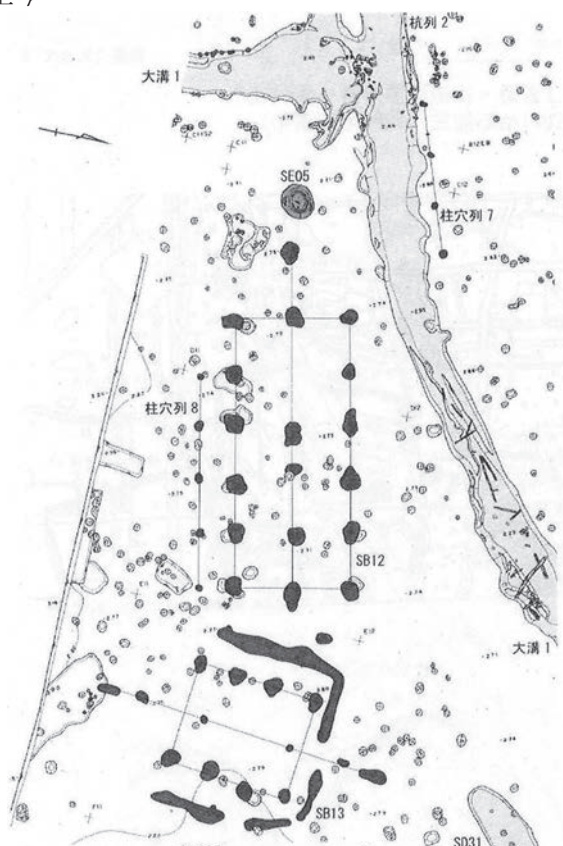


図7 千代・能美遺跡検出遺構図 S=1/300
(小松市教育委員会2003)

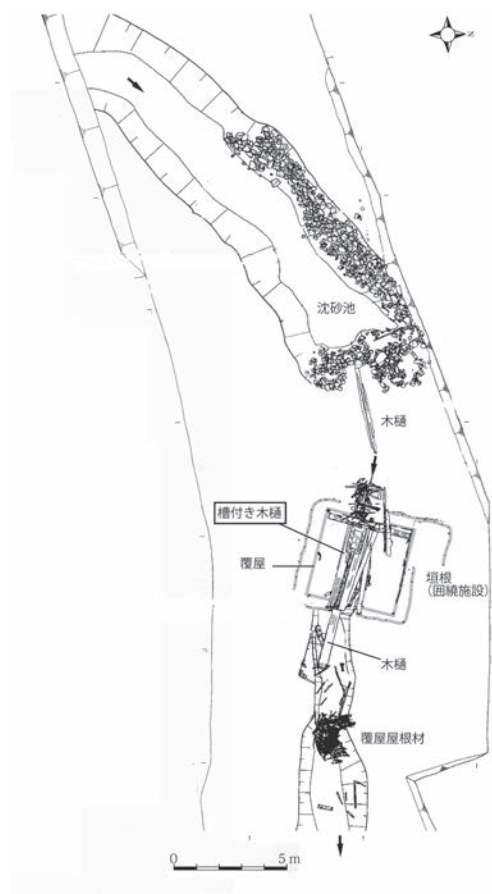


図8 南郷大東遺跡検出遺構図(坂2024)

掘立柱建物の南側には、目隠し^{べい}堀と思わしき柱穴があり、工房施設群があると思われる中央区画との境には板堀が設置されています。南区画からは流水祭祀に該当する導水施設が見つかりました。導水施設の東南側の井戸から溢れ出る水を木製構造物に流し入れたものと考えられます。大量の土器とともに木製高杯や武器・舟といった木製祭祀具の出土も確認されています。

奈良県南郷大東遺跡 ^{なんごうおおひがし} 御所市に所在し、奈良盆地西南部の金剛山東麓の扇状地上に位置する集落遺跡です(図8)。木樋は2つ見つかっており、1つは槽付き木樋で、もう1つは槽がないタイプです。槽付き木樋の周辺には覆屋や垣根といった施設が見つかっており、そこからは水のマツリが行われたことを想定させる桃の種、紡織具、武器類、盾、建築部材、団扇、琴などの遺物が大量に出土しています。

福岡県延永ヤヨミ園遺跡 行橋市大字延永に所在し、現在の海岸線から約5 km内陸に入った段丘上に位置します。遺跡が立地する場所は、当時海岸線がすぐ近くまであり、海を見渡す地形であったといえます。おおむね弥生時代終末期から古墳時代前期、古墳時代後期、古代、中世の4つの時期にかけて集落が営まれていました。古墳時代前期の槽付き木樋が出土しています。千代川遺跡と同様に2連槽のものです(九州歴史博物館2015)。

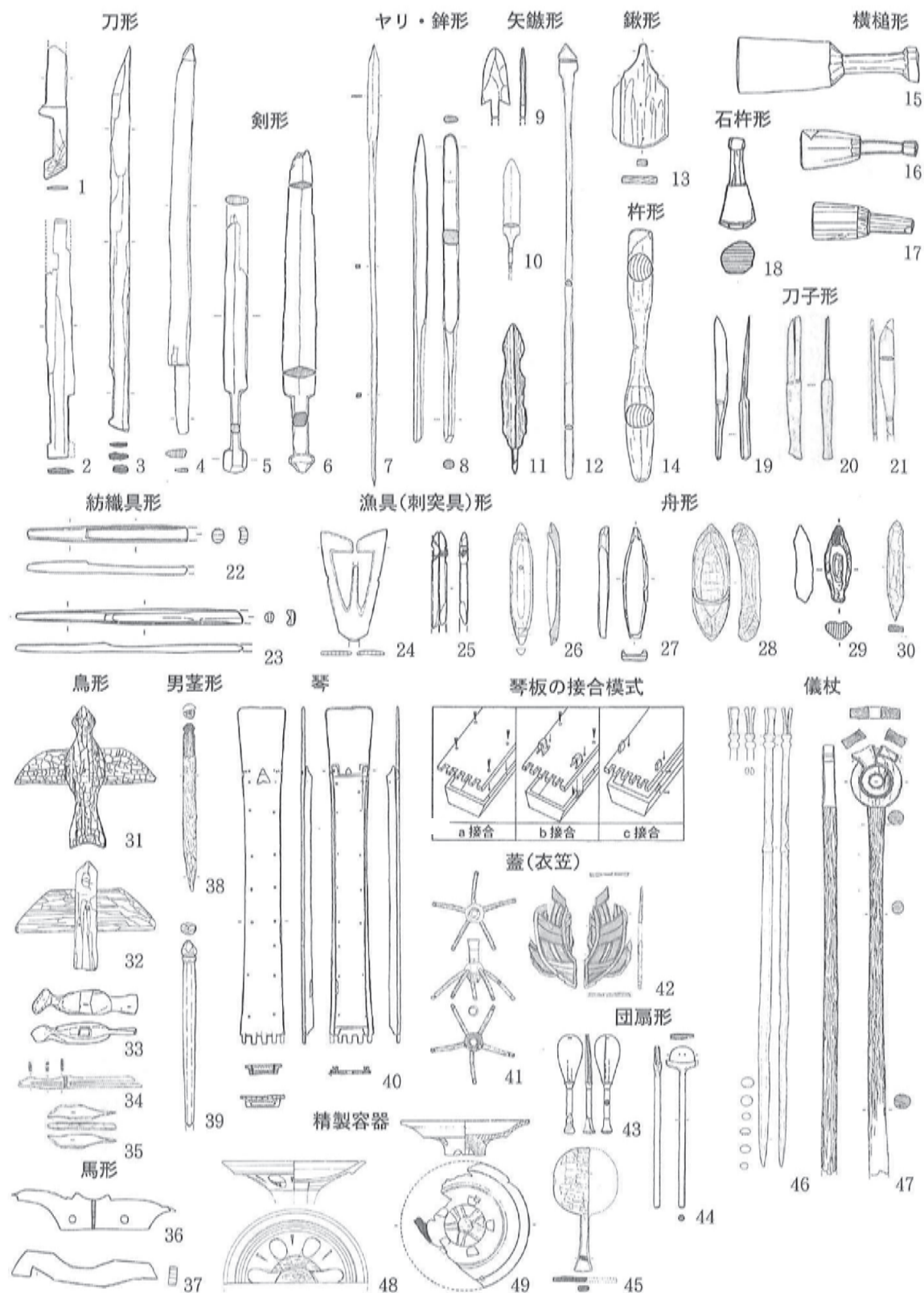
4. 木製品と水辺のマツリをめぐる交流

ここまで、木製品が出土した水辺のマツリの様子をみてきました。これらの内容を基に、日本海域の木製祭祀具とくに刀形木製品、剣形木製品などの武器形木製品に視点を向けて、他地域の動向と合わせて京都府内の遺跡の様相について考えてみたいと思います。

木製祭祀具は今までの研究において、地域ごとのさまざまな関係が指摘されています。例えば、容器の観点で見ると花卉木製高杯(図9-48・49)は日本海側で製作されたものが奈良県の^{まさむく}纏向遺跡などのマツリの祭祀具の中に組み込まれていくこともわかっています。刀形木製品や剣形木製品は、弥生時代後期以降になると出土量が増え、刀形木製品は古代になってからも出土します。しかし、剣形木製品は古墳時代中期を境として出土量が激減します。この事象は祭祀形態の変化、あるいは日本列島内における武器生産と密接な関係が想定されます。

弥生時代後期から古墳時代前期の槽が付いた木樋や武器形木製品に伴う水辺のマツリは、北陸や丹後などの日本海沿岸で出現したものが、滋賀などを經由して畿内へ入ってきたことが指摘されています(青柳2019)。

古墳時代中期は武器・武具の大量生産が行われた時代で、生産された武器・武具は、古墳の埋葬施設に納められます。この時期、九州から北陸まで、刀形木製品、剣形木製品に加え木製刀剣装具の出土量が増加します。奈良県^{ふる}布留遺跡は奈良盆地東部に位置する集落



1~4・7・15・30・35・38・45: 六大 A (三重), 5・8: 城之越 (三重), 6・49: 入江内湖 (滋賀), 9・26: 山ノ花 (静岡), 10・12・14・19: 谷 (奈良), 11・28: 古殿 (京都), 13・22~25・27・37・39: 荒尾南 (岐阜), 16・18・29・47: 下長 (滋賀), 17: 米野 (岐阜), 20: 北堀池 (三重), 21・36: 布留 (奈良), 31: 雌鹿塚 (静岡), 32: 石川条里 (長野), 33 四条古墳 (奈良), 34: 水晶塚古墳 (奈良), 40: 前田 (島根), 41: 下田 (大阪), 42: ハヶ坪 (滋賀), 43: 勝山古墳 (奈良), 44: 乙木・佐保庄 (奈良), 46: 恒武・山ノ花 (静岡), 48: 纏向 (奈良)

図9 古墳時代の祭具・儀具(穂積2018)



図10 古墳時代の木製祭祀具分布図

対象遺跡一覧

[illegible]

遺跡です。古墳時代中期から後期にかけて集落規模が拡大していきます（山内編 1995 ほか）。木製^{さや}鞘や把といった刀剣装具が日本最大の出土量を誇ります。軍事や祭祀を掌握していたとされる^{もののべ}物部氏の勢力範囲内に位置することから、同氏との関係も注目される遺跡です。

5. おわりに

ここまで、木製品がたくさん残された水辺のマツリを通して、古代の暮らしを「つくる・マツリ・交流」の3つの観点から、京都府内の様相を中心に述べてきました。近年、当調査研究センターでは、丹後半島での発掘調査が増えてきています。木製品は、その性質から残りにくいものですが、冒頭で述べたように、雨量の多い日本海側では、木製品が残されている可能性が高いようです。今後の発掘調査で、木製品が出土することを期待し、古代の暮らしがより鮮明にわかるように努めていきたいと考えます。

参考文献

- 青柳泰介2019「古墳時代の導水施設に使用された槽付き木樋について」『古代学研究』第222号
古代学研究会
- 飯田浩光2012「古墳祭祀からみた神まつり 石製模造品を中心に」『王と首長の神まつりー古墳時代の祭祀と信仰ー』平成24年度春季企画展図録 大阪府立近つ飛鳥博物館図録57
- 伊賀高弘1991「瓦谷遺跡」『京都府遺跡調査概要』第46冊 財団法人京都府埋蔵文化財センター
(財)石川県埋蔵文化財センター2012『小松市 千代・能美遺跡』
- 石川ゆずは2019「纏向遺跡辻土壇4出土装飾木製高杯の系譜」『古代学研究』第222号 古代学研究会
- 石崎善久・黒坪一樹・福島孝行2000「浅後谷南遺跡」『京都府遺跡調査概報』第93冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 九州歴史資料館2015『一般国道201号行橋インター関連関係埋蔵文化財調査報告5：延永ヤヨミ園遺跡』
- 小松市教育委員会2003『千代・能美遺跡ー市道能美小杉線改良工事に伴う発掘調査報告書ー』
- 黒坪一樹1998「浅後谷南遺跡」『京都府遺跡調査概報』第83冊 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 竹中大工道具館2014『常設展示図録』
- 高野陽子2022『導水施設の系譜ー弥生時代に遡る地域王権の祭儀ー』令和4年度特別展大阪府狭山池博物館講演資料

- 辻 康男2025「亀岡市千代川遺跡第37次A5区の調査」『京都府埋蔵文化財情報』第149号（公財）
京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 鍋田 勇ほか1988『古殿遺跡』京都府遺跡調査報告書第9冊(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 橋本達也2018「木製の武器・武具・馬具」『モノと技術の古代史 木器編』吉川弘文館
- 坂 靖2024『古墳時代の水支配と水祭祀』国立歴史民俗博物館研究報告第240集
- 福山博章2021「京都府城陽市小樋尻遺跡の発掘調査」『考古学研究』第68巻第3号
- 穂積裕昌2009「古墳時代木製祭具の再編」『木・人・文化～出土木器研究会論集～』出土木器研究会
- 穂積裕昌2012『古墳時代の喪葬と祭祀』雄山閣
- 穂積裕昌2018「祭具・儀具」『モノと技術の古代史 木器編』吉川弘文館
- 樋上 昇2018「木製品の組成と社会変容」『モノと技術の古代史 木器編』吉川弘文館
- 村上由美子2007『古代の木材利用に関する考古学的研究－木製品の製作と使用からの読み解き－』
- 山内紀嗣(編)1995『布留遺跡三島(里山)地区発掘調査報告書』埋蔵文化財天理教調査団
- 山田昌久2018「日本原始・古代の木工技術－伐採・製剤技術と減少・増加加工技術－」『モノと技術の古代史 木器編』(株)吉川弘文館
- 山本 梓2025「亀岡市千代川遺跡・拝田14号墳の調査」『京都の古墳時代』第158回埋蔵文化財セミナー（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター



KYOTO ARCHAEOLOGY CENTER

展覧会「古代のくらし」特別講演会資料

発行日 令和7年11月23日（日・祝）

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターの現地説明会や埋蔵文化財セミナーなどの催し物は、下記のホームページでもご案内しています。

<https://www.kyotofu-maibun.or.jp>

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40番の3

Tel (075) 933-3877 (代表) Fax (075) 922-1189



FB



X